

(講座) 分子創薬科学

(研究室) 医薬品合成化学

(氏名) 栗山 正巳

(職名) 准教授

### 【研究テーマ】

1. 金属触媒を用いた反応開発
2. 生理活性化合物合成を志向した反応開発

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. X. Hao, Q. Chen, M. Kuriyama, K. Yamada, Y. Yamamoto, K. Tomioka, : Rhodium-catalyzed asymmetric phenylation of *N*-phosphinoylarylimines with triphenylborane, *Catal. Sci. Technol.* **1** (1), 62-64 (2011). (IF: 刊行3年未満)
2. S. Hirata, M. Kuriyama, and O. Onomura: Facile synthesis of both enantiomers of (pyrrolidin-2-yl)phosphonate from L-proline, *Tetrahedron*, **67** (48), 9411-9416 (2011). (IF: 3.011)
3. T. Takeichi, M. Kuriyama, and O. Onomura: Catalytic monosilylation of 1,2-diols, *Tetrahedron Lett.*, **52** (49), 6646-6648 (2011). (IF: 2.618)

### 【学会発表】

#### A 国際学会

##### (A-a) 招待及び特別講演

1. O. Onomura, S. Kamogawa, W. Muramatsu, and M. Kuriyama: Facile synthesis of cyclic  $\beta$ -amino acids, The 10th International Symposium on Organic Reactions, Yokohama, Abstract p.43-44, 2011.11.21-24.

##### (A-b) 一般講演

1. Y. Tsuda, W. Muramatsu, M. Kuriyama, and O. Onomura: Catalytic Asymmetric Desymmetrization for Preparation of optically Active Oxazoline Derivatives, The 2nd International Symposium on Process Chemistry, Kyoto, Abstract p.174-175, 2011.8.10-12.
2. T. Takeichi, M. Kuriyama, and O. Onomura: Sn-catalyzed monosilylation of 1,2-diols, 1st International Symposium on Molecular Activation, Awaji, Abstract p.52, 2011.11.9-10.
3. E. Sakata, W. Muramatsu, M. Kuriyama, and O. Onomura: Enantioselective Synthesis of Aziridines, The 10th International Symposium on Organic Reactions, Yokohama, Program p.136 (Abstract ID: pp-28), 2011.11.21-24.
4. P. N. Gichuhi, S. Mizuta, W. Muramatsu, M. Kuriyama, and O. Onomura:

Fluorine-controlled Diastereoselective nucleophilic Addition to N-Acyliminium Ion, 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium, Tokyo, Abstract p. 46, 2011. 11. 29–12. 2.

## B 国内学会

### (B-a) 受賞講演

1. 栗山正巳：日本薬学会奨励賞，準安定二座型配位子を用いた効率的アリール化反応の開発，日本薬学会第 131 年会，講演要旨集 CD-ROM AL08，2011 年 3 月 28–31 日（静岡）。

### (B-b) 一般講演：

1. 鴨川諭，尾野村治，栗山正巳，村松渉：単環及び二環状  $\beta$ -アミノ酸の簡便合成法の開発，日本化学会第 91 春季年会，講演要旨集 CD-ROM 4C6-17，2011 年 3 月 26–29 日（横浜）。
2. 竹市翼，村松渉，栗山正巳，尾野村治：有機スズ触媒を用いるジオール類のモノシリル化反応の開発，第 131 回日本薬学会年会，講演要旨集 CD-ROM 29L-am08，2011 年 3 月 28–31 日（静岡）。
3. 濱口典久，栗山正巳，尾野村治：銅触媒を用いたジオール類の選択的モノアリール化反応の開発，第 131 回日本薬学会年会，講演要旨集 CD-ROM 29L-am10，2011 年 3 月 28–31 日（静岡）。
4. 津田悠太郎，村松渉，栗山正巳，尾野村治：触媒的不斉非対称化法による光学活性オキサゾリン合成，第 131 回日本薬学会年会，講演要旨集 CD-ROM 29L-pm01，2011 年 3 月 28–31 日（静岡）。
5. 吉松博文，濱水亨，栗山正巳，尾野村治： $\alpha$ -exo-メチレンケトン合成に利用できる電極酸化反応の開発，第 131 回日本薬学会年会，講演要旨集 CD-ROM 30F-am17，2011 年 3 月 28–31 日（静岡）。
6. 石丸景子，湊大志郎，飯川慎也，村松渉，栗山正巳，尾野村治：分子内ハロオキシ化のジアステレオ選択性に及ぼすアンモニウム塩の効果，第 35 回エレクトロオーガニックケミストリー討論会，講演要旨集 p. 24–25，2011 年 6 月 23–24 日（福岡）。
7. 松尾星来，栗山正巳，尾野村治：新規 C–O 二座型配位子の開発と鈴木–宮浦反応への応用，第 41 回複素環化学討論会，講演要旨集 p. 195–196，2011 年 10 月 20–22 日（熊本）。
8. 濱口典久，栗山正巳，尾野村治：有機ヨードニウム塩を用いたジオール類の触媒的モノアリール化反応，第 37 回反応と合成の進歩シンポジウム，講演要旨集 p. 256–257，2011 年 11 月 7–8 日（徳島）。
9. 竹市翼，村松渉，栗山正巳，尾野村治：有機スズ錯体によるジオール類モノシリル化の化学選択性および加速効果の検討，第 28 回日本薬学会九州支部大会，講演予稿集 p. 52，2011 年 12 月 10–11 日（福岡）。
10. 谷川智子，村松渉，栗山正巳，尾野村治：光学活性置換セリン合成を目指した触媒的不斉酸化反応の開発，第 28 回日本薬学会九州支部大会，講演予稿集 p. 53，2011 年 12 月 10–11 日（福岡）。

11. 津田悠太朗, 栗山正巳, 尾野村治: キラル銅触媒を用いた光学活性オキサゾリン誘導体の合成, 第 28 回日本薬学会九州支部大会, 講演予稿集 p. 109, 2011 年 12 月 10-11 日 (福岡).
12. 吉松博文, 濱水亨, 栗山正巳, 尾野村治:  $\alpha$ -exo-メチレンケトンの電極酸化転位反応の開発, 第 28 回日本薬学会九州支部大会, 講演予稿集 p. 110, 2011 年 12 月 10-11 日 (福岡).

### 【特許】

1. 尾野村治, 栗山正巳, 竹市翼, 岩崎史哲: ヒドロキシシリルエーテル化合物の製造方法, 特願 2011-010562 (平成 23 年 1 月 21 日) 及び、特願 2011-051602 (平成 23 年 3 月 9 日).
2. 尾野村治, 栗山正巳, 松尾星来, 高瀬一郎: 新規化合物とその錯体並びに錯体の製造方法, 特願 2011-079321 (平成 23 年 3 月 31 日).
3. 尾野村治, 津田悠太朗, 栗山正巳, 柳俊治, 児玉和也: 光学活性化合物又はその塩の製造方法, 特願 2011-153692 (平成 23 年 7 月 12 日) 及び、PCT/JP2012/052176 (平成 24 年 1 月 31 日).

### 【研究費取得状況】

1. 複数の金属触媒を活用したジオール類の選択的変換反応の開発と応用  
科学研究費補助金 若手研究(B)
2. ポリオール類の触媒的モノアリアル化反応  
研究成果最適展開支援プログラム A-STEP
3. 複数の金属触媒を活用した糖類の選択的変換反応の開発  
有機合成化学協会 三洋化成工業研究企画賞

### 【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	32 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	1 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	11 件		